

青年海外協力隊としてルワンダへ！

富士見市協働推進課 熊 あゆみ（2018年度2次隊 野菜栽培隊員）

Episode6 ルワンダにも「四季」はある ～水の大切さ～



◆ルワンダの「四季」◆

日本は春夏秋冬という四季がありますね。なんとルワンダにも、四季はあります。

大乾季、小雨季、小乾季、大雨季の四つです。

雨季にしとしとと降る雨は珍しく、だいたい一時聞くらいでざっと降って止んでしまうのがふつう。ただ、降っている間、日本では経験のないすさまじい音が響き、室内での話し声も聞こえなくなります。

また、日本で特徴的な気温の変化については、ルワンダでは一年中ほぼ変わりありません。

◆乾季と雨季の違い◆

昨年十月からルワンダに来て、一二月程度までは小雨季、それから現在まで小乾季、と二つの季節を過ぎました。小雨季は水があるため、畑にも濃い緑や果実野菜が多く、マーケット（市場）も私が想像していたよりかなり充実していました。

小乾季へ移り変わると、マーケットにはそれほど大きな差は見られませんでしたが、道路では乾燥した赤土が車で巻き上げられる光景を目にします。水を撒く車を見かけることもありました。

これからさらに大乾季になると、マーケットから果実野菜もなくなり、イモ類や豆類が中心になるそうです。

そして、ひとつ困ったこと。それは家で使う水です。

◆改めてわかる、水の大切さ◆

自宅で断水が頻繁に起こるようになりました。朝方はまだ水量がある気がします。ご飯時に限って水が出ません。野菜や食器を洗うのにも、ためておいた水を少しづつ、大切に使います。

そして、「水をたくさん使うこと」といえば、シャワーが挙げられます。私の自宅は、隊員の中でもかなり恵まれていた方でしたが、断水には為す術もありません。初めてちよろちよろの水しか出なくなったときには「ついに!」と思いました。

ためた水も徐々に悪くなってしまったので、水タンクはせつせつと一週間ごとに、水を使ってはすぐ入れ替え…と気を配っています。



写真…二十リットルの水タンク。「ジェリ缶」と呼ばれる。

自宅の水道の都合上、水が撒き散るので、風船で蛇口を作った。

「隊員の中でもかなり恵まれ」と前述のとおり、これはまだいい方で、ルワンダの他の地域に住む同期は水道が通らない場所に住んでいます。

いつも公共用水と呼ばれる場所で二十リットル二十ルワンダフラン(約二、五円)で水を買うか、外にある雨水タンクからの水を使っているのだそう。ルワンダ国内でも、これだけの差があります。

断水に備えて、役に立った持ち物もありました。それはまた今度、二年間分の持ち物や、ルワンダで買って驚いたものと併せてお伝えしたいと思います。

◆農業における乾季の影響◆

活動でも、水が少なくなる中どのように作物を育てているのか、これからじっくり見ていきたいと思っています。

耐乾性の品種、貯水池、もしくは灌漑施設を使っているのか…。ルワンダでは日本に先駆けて、徐々に日が長くなってきました。



写真…飲み水として購入しているJibu(ジブ)。最初に容器を購入し、二十リットルのリフィルは毎回一五〇〇ルワンダフラン(約一九〇円)で買える。

始めは、このJibuですら、そのまま飲むとお腹を壊していたが、今はなんともない。